

「ヤドリコテラテンジュ」―頼れる禍

テンジュ科

危険度：☆☆☆☆

生息数：☆☆☆☆

生態

ヤドリコテラテンジュはテンジュ科の中でも報告数の少ない禍である。球体状に枝葉を広げた姿であることはどの報告例でも共通しているが、その存在する場所については報告される度に違っている。はるか上空に浮かんでいたという報告もあれば、塀の上に生えていたという報告もある。

この禍は人間から「個としての完全性」を撰取し、「他人に頼ることができる存在」にしていると考えられている。それは他人という存在を個人にとつて意味のある存在にすると同時に、個を不完全な存在にするということでもある。

解説

人間は他人に頼る能力を持っており、それは思った以上に様々な場面で現れている。単に精神的・物理的な依存という関係だけではなく、「応援」「支持」「批判」「同調」「比較」などといった「他人がいて初めて成立する関係」全においてそうなのである。

これらの関係に共通なのは「他人がいて初めて成立する」という点以外に「人間にとつて必要である」という点がある。これこそが「依存」であり、その行動自体の価値や善悪などを考える余地もなく、必ず「必要」なものとして人間に突きつけられた事実なのである。

すなわち、支持する人間が違ふことによつて起こるいさかい・他人に入れ込むことによつて行う逃避・人気という指標による判断基準の侵害等、これらの悪癖は人間にとつて「必要」ということである。これに悲しさを感じるものがあれば、この禍が常に目の前に在ることに気づくのだという。

対処法

ヤドリコテラテンジュへの対処という概念は存在しない。この禍は人間がある時は「他人と」争い、またある時は「他人と」の平和を謳歌するというその「可能性」を作り出した禍である。能力があることと自体には善悪も是非もない。人間はこの禍の与えた能力(欠点)をどのように使うか、その一点をよく考えることを使命としているのみである。

